

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Risk modifying effect of social capital on measures of heavy alcohol consumption, alcohol abuse, harms, and secondhand effects: national survey findings. 社会資本の多量飲酒・アルコール依存症・アルコールによる障害・アルコール関連の弊害に対する修正効果の検討：全国調査の結果</p>	
執筆者	
Weitzman ER, Chen YY.	
キーワード	
飲酒・危害・大学生・危険因子・多変量解析	
要 旨	
<p>目的:社会構造の中での個々人間の相互義務や信頼といった社会資本とアルコールへの依存やそれによる障害の個人が有するリスクとの関連を明らかにし、予防効果のメカニズムを明らかにすることを目的に本研究を行った。</p> <p>デザイン:アルコールについての全国パネル調査の個々のデータおよび社会資本の中心的概念である“公益”を示すと考えられる大学レベルでの学生ボランティア活動に参加した時間を用いて多水準多変量解析を行った。結果指標は、多量の機会飲酒・頻繁な飲酒・頻繁な酩酊・診断マニュアルに則してアルコール依存症と診断しうる状態・意図的な酩酊・学内での機会飲酒・危害・他者の飲酒によって生じた副次的結果とした。</p> <p>被験者:米国の119の4年制大学で無作為抽出され、1997-1999年に無記名郵送質問紙調査が行われた18-24歳(n=27687)を本研究の分析対象とした。</p> <p>結果:ボランティア活動の多い大学の学生は機会飲酒のリスクが小さく(補正オッズ比(OR)0.38, 95%信頼区間(CI)0.20-0.69)、頻繁な酩酊(OR, 95% CI: 0.58, 0.34-0.98)、大学内での機会飲酒(OR, 95% CI: 0.48, 0.24-0.95)、アルコール依存症(OR, 95% CI: 0.55, 0.34-0.91)のリスクも同様に小さかった。これらは、個々人のボランティア活動への参加時間(h/day)、何を基盤に行われたボランティア活動であるかを調整した多水準多変量解析により算出された。高いボランティア活動への参加度はアルコール関連の危害を5個以上持つこと、および他者の飲酒による副次的な危害を3つ以上持つことに対して予防的効果があったが(それぞれ、OR, 95% CI: 0.51, 0.29-0.90, 0.30, 0.16-0.58)、個々人の飲酒量を調整後はこの関連は見出せなかった。</p> <p>結論:社会資本は、ハイリスクの学生を含んでいる大学でのアルコール依存や飲酒による危害に強い予防効果があることが示唆された。</p>	